

アンポ世代による白熱座談会 現代の奇観・日米安保条約

安保の目的は「日本封じ込め」に変質した？

江田五月 (衆議院議員)

佐瀬昌盛 (防衛大学校教授)

中嶋嶺雄 (東京外国語大学教授)

金子熊夫 (東海大学教授・元外務省参事官)

進藤榮一 (筑波大学助教授)

西尾幹二 (電気通信大学教授)



——ことは一九六〇年の日米安保条約改定からちょうど三十年目にあたります。その一方で、東西関係は様変わりし「冷戦の終焉」が言われ、日米両国間では経済摩擦が深刻化するなど、世界情勢は大きく動いていいます。これにともなう、安保条約の「見直し」や「廃棄」を主張する議論も出てきました。今日は、それぞれのお立場から、安保の現状、将来について、論じていただきたいと思っています。

佐瀬 六〇年安保当時、私は大学院の学生でして、ここにおられる江田さんなどが、派手にやってらっしゃるのをよく覚えております(笑)。その時から今日まで、現行安保体制

というものが三十年間つづいてきたわけですね。この安保を今後どうするのか、それについて議論することには、私は反対いたしません。むしろ、議論は大いにやればよい。しかし、一部で言われているように、これをすぐに見直すべきだとか、あるいは廃棄すべきだといった性急な議論には賛成できない。現行安保の三十年というものを見直してみれば、軽々に安保をいじる必要はないことは明らかだと思っています。

三十年の間に安保はいろいろな変遷を経してきました。ある時は「核安保」ということが言われ、「中国封じ込めの対中安保」とも言われた。また七〇年代中頃からは、ソ連脅威

論に立つてもつばらソ連に対抗するものだというようになっていた。おおよっぱに見ても、何のための安保か、という議論は、時代ともかなり変わっているんです。

そういう点から言って、日米安保条約というのは、さまざまな事態に対処できる柔軟性をもっていると言えます。たしかにいま日米関係が様変わりし、ソ連も変質してきている。ただ、いま我々がしなければならぬのは、そういう変化に対応してどう安保を運営するのかという議論であって、条約そのものを変えとか、廃棄といった問題は、十分に時間をかける必要があると思っています。

江田 いや、佐瀬さんがご覧になってたわ

けですか(笑)。あの当時は、大学にはいつでも、訳もわからずに安保反対闘争に参加したわけです。いや、訳もわからずというといささか無責任ですが、当時は、日本とアメリカが軍事同盟関係で結ばれたら、いざという時、日本が真っ先にソ連に攻められ、戦争に巻き込まれる、さらに岸内閣の安保改定の手続きがけしからん、この二点で、反対闘争に参加していたわけです。

しかしいま考えると、安保というのは単なる軍事同盟条約ではなかったのではないかな。実際の安保というのは、日米間のいわば基本条約といった性格をもった条約であって、その上にこれまでにいろいろなものが展開されてきたのではないかと気がする。

いま世界は激動しています。そういった新しい国際環境の下、安保という基本的な条約関係がなくなるこのほうがむしろ危険ではないか。安保条約という基本的な日米関係の上にこれからどういう中身をつくっていくか

が重要だと思っています。僕は基本的には、安保条約を活用すべきという立場ですね。

国際情勢は大きく変わった

進藤 しかし元々が安保条約というものは、ボタンの掛け違いから生まれた産物なんです。というのは、冷戦構造というものがあるとされ、アメリカはソ連を、またアジアに関しても中国、北朝鮮の脅威をすべて運動したものとしてとらえていた。北朝鮮の背後に中国があり、中国の背後にモスクワがある、と。一九四九年十月の中国革命の成功、一九五〇年の朝鮮戦争勃発で、日本に対する脅威が極大化したと言われた。

要するに機軸はソ連脅威論です。ソ連とその同盟国たる共産主義への脅威論です。ところがそういった状況は、今日になって完全に終焉した。今おこっていることは共産主義の終焉であり、同時に米ソ対立の終結です。

少なくとも東西関係に関するかぎり、敵味方というものはなくなった、と僕は見ています。しかもその流れは引き返すことができない。そうすると、ボタンの掛け違いから出発した安保条約がもっている自己撞着性は、これからだんだん強くなっていくんじゃないか。そしてもうひとつは、いまや日本が防衛費世界第三位という軍事大国となったという現実があります。この三十年、安保というものが、常に日本の軍事大国化を促していく機能を果たしてきたということ。その点はしっかりと認識しておくべきだと思います。

西尾 私はいまのご意見にはちょっと異論がありますね。ソ連や中国を脅威と捉えたのは誤算だということだと思いますが、それは違う。いままさに、東西のどちらが脅威であって、どちらが防衛的であったかという問題の答えがハッキリと出ている。

東側が崩壊したいま、西側は軍事力を引っ込めて、理解と経済的援助をもって迎えよう



江田五月氏



金子熊夫氏



佐瀬昌盛氏



進藤榮一氏



中嶋嶺雄氏



西尾幹二氏

としているわけです。すなわち西側がより平和勢力であったことはハッキリしたんです。最初にはまちがった幻想から問題をとらえていただきたくない。

もうひとつ大事なことは、脅威というものは世界に常に存在するんです。そしてその脅威は、時によっていろいろに変わる。わが国にとっては、これまでソ連を中心とする共産主義勢力が脅威として意識されてきた。しかしいまアメリカというのも日本にとって脅威であるという局面もある。またアジアでは、日本自身が脅威として感じられている。これからの新しい時代では、脅威の多様化が起こってくると思います。その中で、日米がこれまで通り共存していけるのか、といったためになんか問題も生じてくると思うんです。

私は、安保条約は当分の間は、いまのままでもいいだろうと思います。しかし長期的には、状況の変化を予測して議論を始めなければならぬと思います。

金子 私は六〇年安保闘争を学生として経験し、その後、外務省に入ったんですが、入省して間もなく、当時のアメリカ局長からこんな打ち明け話を聞いた記憶があります。

「世間では日本の外交を対米追随外交と批判するが、ただの追従ではない。日本にとって

どころか、ものすごい対立が生じてきた。そういう状況からすると、安保条約の内容そのものに、いまの時代に合致しえない問題がいろいろでてきている。そこをどう考えるか、根本的に議論しなおすべき時期にきていると私は思います。

安保の「負」と「正」

——お話をうかがうと、奇しくもみなさん六〇年安保の体験を共有されているわけです。そしてこの三十年の安保の役割を一定程度評価される点も共通していると思います。一方で、日本の急速な発展にもなつて安保がさまざまな歪みを抱えているという指摘もありました。その問題点をひとつずつ検討していきたいと思います。

佐瀬 その前に、進藤さんがおっしゃったことにちょっとこだわりますが、安保について三十年前に「ボタンの掛け違い」があったのかどうかという点、これは断じて掛け違いではなかった。だいたいボタンが掛け違っていたものが、三十年も続かずがないわけでは、この点はみなさん合意が成り立つと思います。これはお気の毒だけど、進藤さんの特殊意見でしかないものであって……。

アメリカの力を利用することが有利であるから、利用しているのであって、これもまたひとつの立派な自主外交だ。世間はこうしてそのところを理解しないのかなあ」

あまり大きな声ではいえないことですが、たしかに安保というものを、日本人がかなり打算的に判断していたという面もあった。当時、国会で野党から質問されて「アメリカは日本の番犬、いや番犬様だ」と答弁した勇ましい外務大臣もいましたね。

それから三十年近くたった今日、客観的な状況が大きく変わってきて、日本を特定の仮想敵国から守るという意味での安保の重要性は相当程度、減少していると思います。一方で、日本自身が世界の脅威になっているという面も出てきています。最近アメリカ海軍の某高官が、「安保条約は日本の軍事大国化を防ぐためのビンの栓のようなもの」と発言したといいますが、たしかに現在ではそういう面もある。

しかし私にとってもっと気になるのは、日本が太平洋戦争で迷惑をかけたアジアの諸国が、現に日本の一人歩きを非常に警戒している。ビンの栓かどうか知りませんが、日米安保があつてアメリカが日本を抑えているからこそ、彼らも安心していられるという面がある。

進藤 いや、他の方も似たようなことはおっしゃってるんで、特殊意見ではない。そもそもこの場で何対何と多数決をとるような問題ではないでしょう。歴史というのはそんなもんじゃない。

佐瀬 まあ、その問題は置くとして、私は、現在の日米安保というものは国際的に見ると、かなりの奇観であると言えらると思います。NATO条約と比べると安保は、その前文の精神は双子といていいほど似ています。しかし構造的には、NATOの場合、双務性があるのに対し、安保は片務性ともまったく異なる。その片務性は、当初は不思議とも思われなかった。ところが三十年たってみると、世界で最大の経済力を持つ国と、二番目の国が、しかもその地位が逆転しそうだというのに、軍事的な片務性で結ばれているというのは、大変な奇観といわざるをえない。

いまから七、八年前に、保守勢力の一部から「片務性を改めて双務性を持つ安保にしろ」という運動が起こった。私はそれに対しては疑問を感じましたが、日本がその片務性をどういう意味をもつものとして捉えるのか、これも議論しないといけないと思います。西尾 片務性とは、日本は守ってもらうけれど、日本がアメリカを守ることはない、と

る。もちろんこれだけをもって安保が必要というわけではありませんが、そういう側面があることは忘れてはならないと思います。

中嶋 私はまさに六〇年安保の世代でして、大学卒業後も全学連主流派支持の立場から、今日この座談会をやっている清水谷公園のあたりをウロウロしていたわけです。その時は、同じ場所でも三十年後にこんな座談会をやるとは思ってもみなかった(笑)。

結果的には安保闘争は、徹底的な敗北だったんですね。しかし、いまから思えば、敗北してよかった。その後の日本の三十年を見ると、もし安保闘争に勝利して日本が社会主義陣営に近い道を歩んでいたら、今日の日本もありえなかったし、それどころか大変悲惨な状況に陥っていたと思います。当時、国会を十重二十重に囲んだデモの中であればど評判の悪かった岸首相の選択の方が正しかったんですね。

ただ、現在の状況を見ますと、日米安保は経済協力の条約でもあるのに、経済面の深刻な亀裂が出てきている。東芝ココム事件でみられたように、日米相互協力といえながら、その日本のオーディオ製品をアメリカの議員がハンマーで打ち壊すというシンボリックな出来事もおきています。日米間には経済協力

いう意味ですね。

金子 それは集団的自衛権というものを日本が認めてないからで、それを認めるというたら、国際的に大変なことになる。それ以前に、国内で大論争になるでしょう。

佐瀬 日本についていえば集団的自衛権という概念そのものを認めていないわけじゃないでしょう。

金子 いやいや、認めていませんよ。

佐瀬 日本は集団的自衛権を持つことはしない、ということなんです。

進藤 六〇年安保の時も、同じような議論がありましたね。「片務条約だから双務条約にすべきだ」というね。



リアネット補聴器

補聴器対応電話

フツーの留守電では
ありません。
補聴器をお使いに
なっている方に
特に使っていただきたい
電話です。



「快聴」

誘導コイルプラス留守電
HP-02W/G 本体のみ
36,000円(税別)

REION リオン株式会社
0423-22-1133(大代)
東京都国分寺市東元町3丁目20番41号

条約、軍事条約にしよう」という議論は起こ
ってないし、実際、起こり得ないですよ。
金子 だったらいいんですけどね。
—— たしかにこれまで日本は「オンブにダ
ッコ」の安保条約をうまく利用しながら、一
方で、「対米従属」というフラストレシ
ョンを抱えていたともいえますね。
進藤 安保の負の面は他にもあります。三
宅島で、あるいは沖縄で、いったいなぜあ
んな巨大な軍事基地が必要なのか、私は疑問だ
と思いますよ。あれこそ安保の変質を端的に
表している。かつて安保は、日本の安全保障
を確保するための手段だった。その意味で、
虚構であつたかどうか知りませんが、応分の
機能をしたという評価はできるかもしれない
い。しかし、いま沖縄にある基地は何のため
に使われているか。それは、かつてはベトナム
戦争のためであり、いまや中東に対する派

兵の基地なんです。日本の安全を確保するた
めの手段などではない。
—— そもそも日本にこれほど膨大な軍事費が必
要なのか、大いに疑問です。一機百億円とい
うF15が百五十機余、八十億というP3Cを
九十四機、F16を四十八機三沢に置くという
けど、これだつて一機五十〜八十億する。い
ったいなぜそんなに必要なんです。極東の
脅威は、数的にも質的にもすくなくなくなっ
ているにも関わらずです。
中嶋 進藤さんがおっしゃるように、正負
をキチンと腑分けできれば、議論は簡単なん
だけど、かならずしもそうはできないひとつ
の総体として、安保条約三十年の現実がある
と思うんです。たとえば軍事費の問題にしま
も、私もこれ以上日本が軍事費をふやす必要
はないと思います。しかしながら、いまGN
P1%前後で、日米関係はようやく収まって

いる。ついでの間までは、アメリカ側から、
「日本はタダ乗りしている。軍事負担が低す
ぎる」という大変なプレッシャーがかけられ
た。しかし日本には専守防衛という建前があ
り、憲法九条があり、まがりなりにも非核三
原則というものがあって、ある意味での歯止
めが効いてきていた。そうでなければ、いま日
本は大変なことになっていただかもしれない。
—— そういう歯止めが効いている限り、防衛費
GNP1%というのは、たしかに世界第三位
ではあるにしても、日本が払わざるをえない
日米関係のコストだと思ふんです。これだけ
経済大国になった日本が、国際的な安全保障
システムに対する一種のパーティシペーショ
ン・フィー（参加費）ではないかという考え
方もあり得るわけです。しかも、もし日本が
その軍事力というものを現実に行使する方向
にあったのなら、進藤さんのおっしゃる懸念、

おっしゃる通り、本質は片務的なものでは
よ。ただそれは、軍事超大国とその同盟国と
いう関係では必然的なものです。何もおかし
なことじゃない。これは西ドイツだつて基本
的に同じでしょう。だから同じ議論は、安保
を強めたい、軍備を増強したいという方々か
ら、かならず安保の変わり目（？）に出てくる。
—— もっと言うなら、先程、佐瀬さんがおし
やつた安保の柔構造、これは私も高く評価し
ていいと思います。しかし一方で、安保のも
っている「負」の側面もきちんと押さえてお
かなければならない。負の部分を押さえずし
て、この歴史の転換期にあつて、片務的だ
から、双務的だからといったことを言うの
は、昔と同じ、ためにする議論の繰り返しと
いう感じがしますね。
西尾 その負の部分とは何か、具体的に言
ってください。

進藤 それはハッキリしている。日本が、
少なくとも軍事費に関して言えば、世界第三
位の軍事大国になったということですよ。こ
れがいったい憲法九条とどう調和できるん
ですか。憲法と安保という二つの法体系をど
う両立させることができるかという疑問が出
てくる。
—— 日本は軍事大国か否か
金子 まさにそれを調和させるために、安
保は片務条約になっているんですよ。国際法
上は、個別的自衛権と集団的自衛権を認める
ことになっていますが、日本の歴代内閣、法
制局は、「日本は個別的自衛権だけでいい。集
団的自衛権は憲法九条の精神からいってあき
らめず」ということを言っているんです。
だから日本が攻撃された時、アメリカはあ

たかも自国が攻撃されたように日本を援助す
る。しかしアメリカ本土が攻撃された時、日
本はアメリカを援助することはしない。そも
そも自衛隊は海外派兵ができないんだし、憲
法九条にも反することになるから、実体上も
できないようになっている。
—— 私は佐瀬さんとはちよつと意見が違いまし
て、将来とも安保は片務的であるべきだと思
っているんです。片務性ということとは、たし
かに不自然な面はあるが、憲法九条と安保の
折り合い点として、内在しているものであ
つて、これこそが安保をして四十年近く存続せ
しめた点だと思います。
佐瀬 私は、双務性にしろと言っているん
ではないんです。
中嶋 この議論は、抽象的な議論としては
成り立つけれども、現実にはアメリカ側から
も日本側からも、「安保を双務的な安全保障

(歩く姿は、百合の花)
山路来て、夏のさかりの百合の花。
ゆらゆらと、花の重さに風に揺れる。
その姿、まさに佳人のおもかげ。



1泊2食付(税・サス)
平日 16,000円より
土・休前日 20,000円より
8/10-8/20 22,000円より



花と緑の富士屋ホテルチェーン

湯本富士屋ホテル

箱根・湯本 ☎0460(5)6111

ご予約・お問合せは……
●東京 ☎03(573)3911
●大阪 ☎06(312)9772
●名古屋 ☎052(262)0055
●札幌 ☎011(511)8748
●仙台 ☎022(222)3694

国際興業グループ

90年7月、湯本富士屋ホテルOPEN

梅雨どきの心はなやぐひとときは、あじさいの花を見る時。雨降るごとに色あいを深める変わり花、碧、赤、紫、それに白。あじさいの花の傘々が雨の日の街を飾ります。

●ニーズ先取り、富士電機のセンサ…そのあじさい。土質で花色が変わります。酸性土では青い花、アルカリ性土では赤い花、あじさいは花の土質センサです。富士電機は上下水道のpH度、アルカリ度を検査する水質センサから、FAセンサ、バイオセンサまで、あらゆる分野のセンサシステムを開発。高機能化、高精度化の一途をたどる社会の多様なニーズにお応えします。

花のセンサ



FUJI
ELECTRIC

システムコントロールの

富士電機

もわかるけれど、日本には戦争をする体制はまったくないといっている。

佐瀬 それに防衛予算の問題で言うっておかなければならぬのは、自衛隊というのは国際的に見れば志願兵制ですから、人件費が大変にかかる。さらに進藤さんは、軍事大国、軍事大国とおっしゃるが、日本は軍事大国であるよりもはるかに経済超大国なんですよ。なんだか日本が弱体であるのに、軍事費だけ増やしているかのような印象を振りまこうとしても、それは無理だと思います。

進藤 いや、私は軍事大国であると同時に経済大国であると申し上げました。それに、いまの軍事費の主軸は、日本であれ米国であれ、正面装備費、武器調達費であって人件費でない。

佐瀬 先ほどの「戦闘機が一機百億、対潜哨戒機が何十億、これらはたして必要なのか」という議論は、単純素朴に訴えるところがあるとは認めますよ。しかし……。

西尾 そう、そういう議論は近頃のオバタリアンに訴えるだけで、国際政治学者が論じることではないですね。それに現に、「せいぜいGNP一%だからいまは安心」と言っているのが、多くのアジアの国々のいまの感情でしょう。

佐瀬 しかもいま日本が防衛費を減らせば、別の意味で日本は世界にとってより大きな脅威と見られる。「日本はますます経済大国化するのではないかと」。そういう側面もあるわけですよ。

金子 ちょっと待ってください。いまやっているのは、日米安保が必要かどうかという議論で、必要だという意見が大多数だと思えます。そのことと、日本の防衛力のレベルがどうかということは、別の問題なんです。それを一緒にしてはいけません。GNP一%なり、装備の内容という問題は、別途、合理的に検討すべきことだと思うんです。

問題は、佐瀬さんがおっしゃるように、日本が一方でたいへんな経済大国になった。これが安保三十年間の間に起きた最大の客観状況の違いでしょう。外国から見た場合、日本の経済的プレゼンスというものは、ものすごく巨大化している。そういう前提で見た場合、安保タダ乗り論というのが出ることは無理もないという気もするんです。

アメリカ側の言い分は「日本は応分の負担をせよ」ということでしょう。軍事費が一%なら、ODAを増やして双方で三〜四%分を分担するというのが、経済大国として当然、という論議がある。しかし、ODAも地球の

環境破壊につながるなど見直し論も出て、なかなか増やすことはむづかしいんです。

経済同盟化の意味

進藤 みなさんがご指摘になっている、経済安保としての側面、日米関係の経済的な重要性は私も認めます。しかし、日米の経済関係の重要性という問題と、軍事同盟としての安保というものを重ね合わせてイメージすることこそ、危険なのではないか。日米関係のコストとして軍事安保を捉えるのはどうかと思うんです。

問題は、冷戦構造が変わり始めたにもかかわらず、日本の軍事的スタンスというのは、基本的に変わっていないということなんです。また、軍事費の問題というのは、国の台所にかかわる問題で、西尾さんの言うのと違って軽視できるものじゃない。

西尾 現状を見る限り、私は安保の性格を変える必要はないと思います。というのは、日本の周辺ではソ連、中国、そして伝えられるところでは北朝鮮までが核武装国として存在する。ソ連極東軍の配備も変わっているわけでもない。

ただ、おっしゃるように、ロング・レンジ



いつか君とこんな街を
歩いてみたい。



日本団体生命

本社 千150 東京都渋谷区東1-2-19
☎03(407)6211(大代)

中嶋 そのことに関連して言いますと、日米安保が様々な問題を持ちながらも、とにかく抑止力として果してきた側面というのは、まさに正、プラスの要因として考えなければいけない。その抑止力のあり方が今後どうなるかというところで議論すべきでしょう。

進藤 そこで私は中嶋先生と意見が違ってくると思うんです。いったい安保が抑止力として機能したのかどうか、政治家としてはなく歴史家として見た時、私はきわめて疑問だと思いますよ。

中嶋 そのことに関連して言いますと、日米安保が様々な問題を持ちながらも、とにかく抑止力として果してきた側面というのは、まさに正、プラスの要因として考えなければいけない。その抑止力のあり方が今後どうなるかというところで議論すべきでしょう。

中嶋 そのことに関連して言いますと、日米安保が様々な問題を持ちながらも、とにかく抑止力として果してきた側面というのは、まさに正、プラスの要因として考えなければいけない。その抑止力のあり方が今後どうなるかというところで議論すべきでしょう。

佐瀬 そういふものは歴史的に後からいくらでも解釈できるんです。特に、意図などとしていたか、あるいは朝鮮戦争が日本にまで波及する可能性があったのかというのは……。

進藤 侵攻する能力ではなく、意図ですよ、私が申し上げたのは。それははっきりと区別していただきたい。

佐瀬 そういふものは歴史的に後からいくらでも解釈できるんです。特に、意図などとしていたか、あるいは朝鮮戦争が日本にまで波及する可能性があったのかというのは……。

中嶋 そのようなことを言うと、日本はとにかく非武装中立でくればよかった、という非現実的な議論になっちゃう。

進藤 いや、私はそうは思いませんよ。非武装中立の問題は、また別のことでしよう。外交はそんなに単純にいくものじゃない。

佐瀬 中国が日本に対する侵攻能力を持っていたか、あるいは朝鮮戦争が日本にまで波及する可能性があったのかというのは……。

進藤 侵攻する能力ではなく、意図ですよ、私が申し上げたのは。それははっきりと区別していただきたい。

中嶋 そのようなことを言うと、日本はとにかく非武装中立でくればよかった、という非現実的な議論になっちゃう。

佐瀬 中国が日本に対する侵攻能力を持っていたか、あるいは朝鮮戦争が日本にまで波及する可能性があったのかというのは……。

世界で活躍するあなたの隣に、 ニッコー ホテル

- ホテル・ニッコー・シカゴ
- エセックス・ハウス(全館改装中、31年4月完成予定)
- ホテル・ニッコー・サンフランシスコ
- ホテル・ニッコー・アトランタ(30年秋開業予定)
- ホテル・ニッコー・メキシコ
- ホテル日航千歳
- ホテル日航アンヌプリ
- ホテル日航成田
- ホテル日航大阪
- ホテル日航福岡
- ヴィラ・オクマ・リゾート
- サンマリーナ・ホテル
- 沖縄グランドキャッスル
- ホテル日航八重山
- ホテル・ニッコー・ドーバリ
- ザ・モントカーム
- ホテル・ニッコー・デュッセルドルフ
- ホテル・ベイジントロント/北京
- ホテル・ニッコー・ロンバイ・シアンハイ
- ホテル・ニッコー・ホンコン
- ホテル・ロイヤル・タイペイ
- ホテル・ニッコー・マニラ・ガーデン
- プレジデント・ホテル/ジャカルタ
- グアム・リーフ・ホテル
- ホテル・ニッコー・サイパン
- ホテル・ニッコー・パラオ
- ホテル・ニッコー・バンドニー(30年秋開業予定)

いつ、どこにご滞在いただいても、こころ暖まるおもてなしと
プロフェッショナルなサービスは、共通です。

nikko hotels international

ご予約・お問い合わせは：最寄りの旅行代理店、日本航空各支店、営業所、又はニッコー ホテルズ インターナショナルへどうぞ。
東京 ☎(03)281-4321/大阪 ☎(06)226-4321/名古屋 ☎(052)581-4321

つしゃった負の側面を否定する趣旨ではない。むしろ進藤さんがおっしゃる通りだと思いますね。「安保条約でハッピーだ」とはともいえない人たちが日本にはたくさんいる。そもそも国際的な軍事対立が負の側面でないとするれば、なぜ皆は軍縮にむかって一生懸命努力するのかということですね。しかし、負だからすぐになくせと言っても、これはなかなかするわけにはいかない。

進藤 そう、ある程度は仕方ないと思いますよ。

江田 それはしょうがないわけで、負の力も世界にあってバランスが取れているということもあります。しかし負は負です。そこから常に危険が起きる可能性がある。そこでみんなでその負の部分をコントロールしていかなければならぬわけですね。そういう方向性を持たずに、経済も正であり、軍備もまた正であるというわけにはいかない。

そこで、どうやったら負の側面を小さくできるのか、それがこれからの安保の問題であると思います。その一つの考え方として、日米だけでなく、より広いアジア・太平洋地域の枠組というものを考えていくべきだと思えます。軍事構造だけではなく、それ以外の枠組についてもね。

です。必要はない」という議論が当然でくる。つまりこれからは、日本の中に高まるナショナリズムを計算に入れないと、この条約がもつていたせつかくの有効性が無効になると思うんです。

進藤 おっしゃる通りですね。これから変わろうとしているのは何かというと、沖縄にある軍事基地は、日本の軍事大国化を防ぐための基地としての機能を持ち始めている。これは皮肉ですね。私はアカデミシャンとして申し上げておきたいんですが、その現実の側面だけは押さえておかないと、将来の日米関係を考える時、どこかでギクシャクするところが出てくると思うんです。

「ビンの栓」論に否定的という点では、西尾さん、進藤さんのご意見は一致しましたね。

江田 ただ、たしかに日本はいま、軍事大国になる能力を持っているのは事実です。しかも、能力だけではなく、日本の一部には、そういう期待を持っている人たちもいるのではないかと、と世界から見られているんです。現実には、安保条約をなくせという主張も、国内のいろいろな所からチラホラ聞こえてくる。「栓を取って、軍事大国になってしまえ」とまでハッキリ言わないにしても、そういう

安保は「ビンの栓」か

西尾 私の今の基本的な考えは、現状のままの安保条約が、現状のままの有効性をもって続いてくれれば一番ありがたいということです。しかし、進藤さんがおっしゃった意味とはまた違いますが、私も私なりに負の部分というものを感ぜはじめていますね。

たとえばいま冒頭で金子さんが言われた「ビンの栓」論です。いったい自分が自分を監視するために、四千億円という基地維持費を外国軍隊に払うのは妥当なのかという議論は、国内で当然おこってくるでしょうね。

さらにアメリカはまだいまの所、アジアの安全保障というものを真剣に考える立場にあるわけですが、これがもつと経済的に落ち込むと、その余裕もなくなってくる。大統領が議会から突き上げられて、ついに我慢できなくなつて、「いや、日米安保条約は堅持しななくてはならない。これは何よりもアメリカの本土を守るためである」ということを言わざるをえなくなるといった事態も起こりえないことではない。

日本はそうだった時、「話が違ふ。日本はアメリカに利用されるただの手段か。そこま

方向を目指す勢力が、いまの日本の政治状況の中にはある。そして、近隣諸国には、栓がとれることへの恐怖は強烈にある。なんとなくイヤな議論ではあるけれど、「ビンの栓」論を一方的にこちらの自由な意志を束縛する議論だと思わないほうがいいと思います。

金子 私もそう思います。特に我々の世代は、間接的に戦争を経験している世代だからいいとしても、いまの若い世代にはそういうものがない。私はこの一年来大学で若い学生を教えてまして、彼らが日本のたどってきた歴史についての認識があまりに薄弱であることに驚いているんですね。その若者たちが、二十一世紀の日本をどちらの方向にもつていくのか、実は心配な面もある。ですから、自戒という意味を含めて、ある種、手足を縛っておくということは必要なことではないかと思うんです。

佐瀬 さきほどから江田さんは、脅威、脅威と乱発されていますが、日本が軍事大国化する可能性が現実にあるとお考えなんですか。

江田 可能性というか、その力をもっているということですね。

佐瀬 しかし客観的にみますと、これだけ経済的に成功をおさめた日本がミリタリー・スプレッド(軍事的脅威)となるのは、まったく

今日のユニフォーム

No.333



★日通マンの五〇年めの更衣

「更衣よしなき草をむしりけり」……いかにも坦々とした暮らしの一コマが偲ばれる一茶の句だが、更衣(ころもがえ)は初夏の季節。陰暦四月一日に綿入れを脱いで拾(あわせ)を着て、六月一日にその拾から単衣(ひとこ)

に着がえる。これが更衣の由来だが、現代では、陽暦の六月一日に学生服やOLの制服などが一斉に夏服に変わる。とりわけ、女子高生の制服が紺色から真っ白なセーラー服に変わるのを見ると、いかにも夏がやってきたという気分になるものだ。

ところで、半世紀ぶりの更衣というところ、ちょっと大げさだが、この六月一日から日通のユニフォームが、おなじみのグリーンから、ブルーを基調とした爽やかなデザインに一新した。

もともと日通は昭和二年に全国の輸送会社が日本通運株式会社法によって統合され、物資の輸送を担う国策会社として発足したもので、その制服も当時は国防色といわれたグリ



ーンに統一された。戦後、民間会社として生まれ変わってからも、日本の復興と高度経済成長をかげで支える物流マンの心意気を、そのグリーンのユニフォームに託してきた。

しかしこの半世紀の間に、世界も日本も、生活も価値観も大きく変わったし、日通に期待される輸送のニーズも変化し多様化した。その新しい時代に向けての企業の対応の一つとして、今回のユニフォームの刷新があったわけだが、新ユニフォームは、現代的な明るい親しみやすいイメージと、仕事に打ち込む活動的な機能性、コルポレート・アイデンティティの環境としての統一性の三点を基本に、色調・素材・デザインをとことん追求した。人は制服通りの、間になる」とはナポレオンの有名な言葉だが、この新ユニフォームに着替えた日通マンのそれぞれの職場でのモラル・アツプに期待したい。(日本通運)

愚かな選択であるわけです。アメリカを始め、世界が日本を脅威と感じ始めているとすれば、むしろピースフル・スレット(平和的脅威)という面なんです。それがストレートに軍事的脅威として映りやすいというのは……。

西尾 それは過去のイメージがある。ドイツと同様、日本がそうした目でみられやすいという歴史があるわけです。ですから、おっしゃる通りに、潜在的可能性としての段階であれこれ言われているというのが、いまの状態だと思えます。実際には、日本が軍事大国になっているわけではない。いまのGNP 1%は、ほとんどが給料や米軍支援であって、日本の軍事がどれだけ実戦力をもっているかということになると、非常に疑わしい。ただ歴史的経験、記憶から近隣が恐怖するというのも計算しなければならぬ。

険悪化する日米関係

進藤 近隣諸国だけではなく、アメリカが恐怖しはじめている現実を見落しちやいない。『ビジネス・ウィーク』の調査では、ソ連を脅威と考える人が22%で、日本を脅威と捉えるのが68%なんです。この現実を重く思いますよ。

として軍勢力というものがあつたわけです。しかし、これからはそれでは事が済まなくなる時代になっている。

西尾 私もそれを言いたいんですね。日本の手足を縛るという考え方でこの条約が結いていくとしたら、逆に日本がアメリカの手足を縛る方法も考えて、改めて安保条約を結び直すことが必要じゃないか。つまり、日本だけが手足を縛られるというのでは、必ず日本側のナショナリズムを刺激する。そういった意味で、アメリカに何らかの意味での枠をはめることが必要であらうと思います。

進藤 しかしそんなことをやっていると、結局、二国間外交の落とし穴にはまってしまうと思うんです。日米安保は柔構造だということは評価するにしても、その機軸は軍事同盟ですからね。それを六〇年代に日本の外務官僚たちは、経済同盟に変えていこうとさまざま

中嶋 たしかに米ソのデタントがここまで急速に進んだ背景には、日本の著しい台頭があつたことは否定できないと思いますね。

日米関係には、そういう意味でいま、極めてエモーショナルな亀裂がはじめています。はたして日米関係が本当に安全保障上も安泰か、万一時、アメリカははたして本当に日本を防衛してくれるのかという問題は、もっと真剣に考えなきゃいけないと思います。

西尾 これまでアメリカの理性ということをおっしゃるに信じてきたところがあると思うんです。しかし、アメリカがこれ以上、没落したら、何がおこるかかわからない。私は日米関係の先行きについて、暗澹たる思いをもつて見つめているんです。

これがドイツと事情が違ふのは、ドイツはNATOの中に入っている。したがってアメリカ対ドイツというストレートな関係にならない。しかし日本の場合は残念ながら、近隣にそうした安全保障体制がなかったために、日米二国間体制なんです。これが問題を危くしていくのではないかと。

たとえばいま、日米の間ではF S X問題と構造協議という二つの事件があつた。F S Xの問題は象徴的であつて、あの事件からこれまで別のものだった経済と防衛がリンクして

な努力をした。それは高く評価しますが、にもかかわらず、安保がもっている二国間同盟としての落とし穴は、見逃すべきではないと思います。だからいま何とかして多角的でしなやかな枠組をつくる努力をすべきだと思います。

中嶋 それは僕も賛成だな。

江田 アメリカに手枷足枷をという話ですが、もちろんこれは軍事的な意味でおっしゃっているのではないと思いますが、進藤さんがおっしゃる通りに、日米二国間だけでこの問題を考えるわけにはいかない。たとえば中国が核兵器をもち、北朝鮮ももっていると伝えられる。それに日本がどう対処していけるのかといえば、軍事的な能力を増していけばいいというものではない。世界全体、とりわけアジア・太平洋地域に軍事的な火が噴くようなことのない構造をどうつくるかというのが

きた。そして構造協議では、アメリカは主権国家としての日本をまったく無視する行動にでた。いわば日本に対して、発言の遠慮が一気に失われた。

これはいわば、アメリカ側が日本に「お前たちが敗戦国だったことを忘れるな」と、一種、覚悟を突きつけてきたことだと思えます。そこを起点にして、これからの日米関係を考えなきゃならないのではないかと。

進藤 おっしゃる通りだと思います。私は日米関係を二国関係で考えていくと、軍事の面でも経済の面でも、ある種のデッド・ロックに乗り上げるんじゃないかと思っています。だから多国的な機構をつくり上げていかなければいけない。

西尾 最近、だんだんそれがはっきりしてきていますね。

中嶋 ただ、そこで救いになると思うのは、いまや世界は非軍事化の方向に動いている。その意味で、安保条約がもっていた、あるいは日米関係がもっていた軍事的側面は、できるだけ軽減していくべきだと思います。

ただそうすると、日本の内部に存在するナショナリズムというものが満たされないという問題もある。これまでの世界ではナショナリズムのひとつの帰結として、あるいは象徴

大切だと思います。たとえば、アジア・太平洋安全保障会議のようなものですね。

それとアメリカに枠という時、軍勢力だけではなく、たとえば環境問題とか人権問題で、日本がもつと国際的に役割を果たして、アメリカの行動をリードしていく。それが対米追従でない日本の外交のめざすべき方向だとも思います。

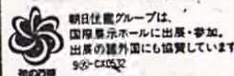
金子 おっしゃる通りですね。日本がこれだけ経済大国になっただけに、日本だけの防衛ということではなく、日本の防衛プラス日米を含めたアジア・太平洋地域の防衛ないし安全保障ということをや、この際考えるべきではないか。安保改定三十年を迎えて、そういうことを考えるいいきっかけだと思います。

進藤 その意味で、すでに六〇年代の前後に、石橋湛山氏が、米・中・日・ソ四国集団安全保障条約機構を提唱したんですね。こ



キタVSミナミ フトコロの深さを競う

梅田を中心とするキタと、難波周辺のミナミ。どちらも大阪を代表する繁華街。アダルトな雰囲気、東京的なソツのなさが漂うキタに対して、ミナミは「来るものは拒まず」といったフトコロの深さがあり、高校生からオジサンまでが気軽に遊べる庶民的ムードが人気。浪速子が「気がねなく遊ぼう」といえば自然と足はミナミに向かう。旅心、遊び心、満喫のオアシス——大阪ミナミと堺の朝日プラザホテルズ。



朝日プラザホテルズ

●お問合せ・ご予約は
東京(03)344-5060
大阪(06)212-1451

■朝日プラザホテル
アミニティー心斎橋
(シングル6,100円—ツイン13,000円)
■朝日プラザホテル千日前
(シングル7,900円—ツイン12,000円)
■朝日プラザホテル心斎橋東
(シングル6,100円—ツイン11,700円)
■朝日プラザホテル
アミニティー堺
(シングル7,000円—ツイン14,000円)
※宿泊料金は税・サービス料別

これは、社会党の江田三郎さんも主張していた。こういった形で、東アジアの安全保障機構をもっと多角的な機構に切り換えていかなければならない。その絶好の機会だと思わうですね。

中嶋 安保条約をよく読んで見ると、この条約は国連というものに理念的な基礎を置いている。第十条には、「日本区域における国際的平和及び安全の維持のため十分な定めをする国際連合の措置が効力を生じた」時は、この条約が効力を失うということが書いてあるんですね。ところが残念ながら、これまで国連に国際紛争を解決し得る力はなかったわけです。

汚れ役をしない日本

金子 さきほど進藤さんが、日米安保の「負」の面を強調されましたが、こういったものは必ずプラスとマイナスがあるわけで、それを比較考量して、プラスのほうが多いというところで成り立っているわけです。プラス面も認めておかなければ、バランスを欠くとおもいます。

具体的にはたとえばこういうことがあった。一九八七年のイラン・イラク戦争の際、

日本のタンカー船団がペルシャ湾で立ち往生した。日本に掃海艇を出してくれという話がありましたが、当時の官房長官の反対もあって、実現しなかった。その時、護衛してくれたのは、アメリカ海軍だったわけですね。

あるいはブルトニウム海上輸送の話でも、万一シージャックなどが起こった時、プロテクトしてくれるのは、アメリカなんです。それは安保条約があるからであって、もし安保が放棄されたら、そういったことは期待できない。これも安保条約のフリンジ・ベネフィット（余録）のひとつと考えるべきですね。

進藤 おっしゃる通り、シーレーン防衛、ブルトニウム輸送については、第三世界のテロリズムといった問題もあります。しかしこれも日米安保によって保護するという形ではなく、西ドイツの社民党やイギリスの労働党が主張したような、国連船舶構想のような形で、もっと多角的な安全保障構想を日本が出すべきだと思うんです。そうでなければ、レーガンの中東アクトバット外交の掃海役をやることになる。

金子 いや、私は過去、日本が安保条約によって現実にメリットを受けてきたんだという事実を申し上げたかったんです。

い。そのためにこそ、軍事大国の復活といった脅威を諸外国に持たせないように、日本はこれ以上の軍備を持つべきではないんです。日本自身が、最小限、極東の軍事バランスに合わせた形で軍縮をすべきだろうし、軍事費の凍結をすべきだと思うんです。それが日本にとっての汚れ役ですよ。

私はこれは日本外交の致命的な欠陥だと思ふ。占領の遺産なのかもしれないが、日本人は自分で時代を変えていくということをどこかに置き忘れてしまった。いまの日本に必要なことは、自らイニシアチブをとって、もちろん慎重な配慮をしつつですが、国際環境を変えていく、あるいは日本国内を変えていくことだと思ひます。

イニシアチブを放棄した日本

——日本はもっとイニシアチブを発揮すべきだという点では、三人のご意見は一致するようですが、他の方はいかがでしょうか。

中嶋 日本が掃海艇を出すにせよ、国連船舶構想を提唱するにせよ、そこまではいろいろステップを踏まなければ、逆に誤解される面があると思います。というのは、いまこれだけ大きな歴史の変化がおこっている。あ

工事現場の交通誘導



雑踏の整理・誘導

佐藤 掃海艇派遣の問題は、私も一言、申し上げたいんですが、日本は戦後一貫して、恰好の悪い、危険な仕事というものを国際的にまわしてこなかったわけですね。先程の掃海艇派遣の要請があった時も、日本はどのような説明をしたかというと、「日本は海外派兵をしない。海外派兵をしないと、外国がどんな目でみるかわからない」といって断わった。それはたしかに嘘ではない。しかし一方で、そんな嫌な汚い仕事はしたくないという本心もあったと思いますよ。

だから小さな点ですが、私が日米安保にマインズの部分があるとしたら、日本に嫌な仕事は断わればよいという習性を植えつけてし

る意味で冷戦は終焉を迎えている。となると、従来、冷戦構造という大状況に隠れていたさまざまな問題がいっぺんに噴出してくると思うんです。

たとえば地球破壊の問題や人権の問題、民族問題の爆発もそうですね。こういう問題に対して、日本がなにを発言しているかというと、まったく発言していない。たとえば天安門事件をとっても、ハッキリとした態度表明はありませんでした。そうすると、日本という国は経済のことだけ考えていて、デモクラシーの根幹にふれる人権の問題などには、極めて古臭い体質をもっている国だというイメージが外にはある。これを払拭していか

各種イベントの警備



各種の施設警備

いかぎり、安全保障上の問題で、掃海艇とか何とかいっても、日本は大きな役割を果たせないと思います。

江田 私も同じ意見ですね。イニシアチブを発揮するには、いろいろな前提が必要で、佐瀬さんがおっしゃった掃海艇問題にしても……。

佐瀬 掃海艇はシンボリックな一例として挙げたまでです。

江田 ええ。ただ、あの問題は国会でも議論になりましたが、我々が躊躇したのは、掃海艇の派遣が海を掃除するという以上の軍事的プレッスンにつながっていく恐れがあったからです。すくなくとも、周辺諸国からそう見られる恐れがあったわけです。

いまだに第二次大戦に対する日本の反省はどうなっているのか、アジア諸国から日本は猜疑心をもって見られているという状況がある。こんなことはきっちり清算をしなければならぬと思います。

西尾 江田さんに一言申し上げたいんですが、戦争についての謝罪の問題は、非常に難しい問題なんです。たとえば日本は朝鮮半島や中国大陸に対しては十分な謝罪の気持ちを持っていますが、実は先の戦争での主たる交戦相手国は、ソ連を含むいわゆる欧米列強

だったんです。欧米列強に対して罪の意識を抱いている日本人は、よほど風変わりな人以外にはないと思います。そういうことからしても、ドイツなどの場合とはまったく違う。ですから簡単な対応はしにくい問題なんですね。

それから天安門事件で日本は明確な態度をとらなかったと中嶋さんはおっしゃいます。が、近い国への対応は難しいのであって、その証に、リトアニア問題で人権大国フランスは逃げ腰ではないですか。

金子 私は佐瀬さんに申し上げたいんですが、カッコ悪いことをしなくてはならないというのは、その通り。それは大国の責任だと思っています。しかし掃海艇の話は私も例として挙げましたが、自衛隊の海外派兵については、そうとう慎重に議論をしなければならぬと思います。私自身はこの種の海外派兵ないし派遣に絶対反対というわけではありませんが、憲法九条にもかかわる問題ですし、十分に国内で議論し、国民的なコンセンサスを得る努力をする必要があります。ところが、いまのところ、そういった議論すらなされていません。

—— いずれにせよ日本という国は、どんな形にせよ国際政治の主役を演じたことがな

くないと、日本がこれから何をやるにも外国との摩擦が大変なんです。

西尾 構造協議について私がいいたかったのは、この問題はビジネスのルールを簡単に変えていくといった次元では終わらない要素を孕んでいるということなんです。それを現段階では「済んだ、済んだ」と済ませて日本政府の認識の甘さということを申し上げているんです。

日本外交の欺瞞性

中嶋 私は野党に対しても言いたいんです。が、社会党をはじめとする野党は、アジアの近隣諸国への視点というものがまったく欠けている。韓国にしても、台湾にしても、あるいはアセアンの問題でも、何も打ち出せないでいる。

あるいは日本にある米軍基地の問題ですね。これは今後、だんだん減っていくかざるをえない。その場合、たとえば横田基地なんていうのは、東京の地価の問題、都市開発の問題、あるいは成田にかわる国際空港の緊急な必要性からしても、もう返還してもらわなければならない。そういった問題提起を野党がすれば、私は野党が選挙に勝つことだって

世界に翔く 芽吹き屋 夢和菓子

冷凍夢和菓子ギフト



目覚めた時がつくりたて

各種詰め合わせ自由
五千円〜一万円
（送料別途）

本社/028-34岩手県紫波郡紫波町上平沢八幡61
岩手県紫波郡 0196(73)7614 代 FAX0196(73)8383

ったと言えそうです。その点、これから変わっていくかざるをえないでしょうね。

西尾 そこで私は日本政府、外交当局に対して、ぜひ言っておきたいことがあるんです。

日米構造協議というものがありません。一國の構造を変えるといったことは、人間の細胞や組織を変えるような話で、できっこない、いややってはいけぬものだったと思います。先日の中間発表で一段落して、峠を越えたような安易な気持ちになつてい。日米両政府とも、この問題を政治的に利用して、危機を先送りしているようなところがあるんです。私はこれは、結果的にやが

あると思いますが、まったくそういう発想がない。

進藤 朝鮮政策にしても、社会党などは、朝鮮半島の分断を固定化するということで北とのつながりを続けている。私はこの際、はっきりと転換すべきだと思っんです。たとえばクロス承認は、統一への一里塚という形で位置づけることもできる。

西尾 社会党は大損しますよ。いずれ北朝鮮では、ルーミアニアのようなことが起こるでしょうから。

進藤 もうひとつ、GNP一%枠なんてことも、社会党は「一%を守れ、守れ」と言いますが、そうすると黙っていても日本の軍事

大観がこよなく愛した酒
— 広島の酒 —

酔心

SUISHIN

株式会社酔心山根本店

費は世界第三位、第二位ぐらいのレベルにな
って行くわけですね。

江田 私は社会党じゃないから、これも弁
護する必要はないんですが(笑)、日本の野
党の考え方というのは、日本がとにかく世界
の面倒事に巻き込まれないように、というの
がスタートなんですね。

西尾 亀が甲羅に首を引っ込めてじっとし
ているのと同じだ。

江田 しかし幸か不幸か、日本は世界の経
済大国になって、世界におけるプレゼンスは
飛躍的に大きくなった。こういう時代にどう
やって世界を構想するかという発想が野党に
も求められている。私は野党もこれから変わ
ると思うし、変えていきたいと思っています。

中嶋 いずれにせよ、日本は外交的な図式
をいっぺん再検討しなおす時にきている。現
在の複雑な国際状況に対応するためには、日
本の対外的なパネをつけなきゃならない。そ
のためには、軍事力を増強するのではなく、
日本を風通しよくすることによってパネをつ
けなくてはならない。ところがこうした大き
な社会的、歴史的変動の中で、日本はどうあ
るべきかという本質的な議論が先おくりされ
たまま、ずっときている。たとえば国際化な
るに恰好いいことをいいますが、そのために

家は「西側の軍事同盟が侵略性を発揮するとい
う想定自体が間違っていた」とはつきり
言ってるんです。

ですからソ連は公式には日米安保というも
のを目の仇にしていることになっているが、
腹の中ではまったく違ふんです。はつきりい
えば、彼らだって安保存続歓迎なんです。

進藤 しかしNATOと安保では決定的な
違いがある。それを無視して議論しても始ま
らない。NATOの方はすでに政治同盟に転
換するということを表明しているのに、日米
安保は依然として軍事同盟としての機軸をも
っているんですから。日本だけが奇妙なこと
に軍拡を続けている。

日ソ関係改善はあるか

西尾 いや、日米安保もだんだん縮小する
方向に行くことは間違いない。少なくとも在
日米軍が漸減していくことは、もうプログラ
ムに載っているんですよ。

進藤 それは日本が軍事的な肩代わりを強
めていくという形でしか考えられないんじゃ
ないですか。

中嶋 そこまでアメリカは日本を信頼して
いないと思う。これから日本とドイツが二十

本当に国内で血みどろの努力があったかとい
うと、これも素通りして先送りしているんで
すね。そういうある種の欺瞞の構造というも
のを正していくことが、日本の総合的な安全
保障にとって重要ではないかと思っています。

進藤 私は、日本が国際的なイニシアチブ
をとって外交を展開していく上で求められて
いるのは、多かれ少なかれ、ドイツのような
生き方だと思います。ドイツがあれだけの経
済大国でありながら、ドイツ叩きというもの
がなかったのは、それだけの努力があったか
らです。労働時間についても、ILO条約を
きちんと守り、日本人より年間五百時間、六
百時間も少ない。僕は、日本も国内構造を変
えていかないと、外交問題は変わらないと思
います。外交でも経済摩擦でも、外圧がなけ
れば日本は変わらないし、変えることができ
ない。一党支配の下で既得権益の巨大な怪物
ができあがっている。

もうひとつ、西ドイツについて言えば、一
方で、ボーランドとの間の国境線の確定を約
束し、他方で軍縮をきちんと進めている。日
本はその軍縮のプログラムすら出せない。

佐藤 いまの進藤さんの言い方は、かなり
表面的だと思いますね。ドイツにとっての正
念場はこれからやってくるんです。いまヨー

一世紀にかけて、非常に大きな問題児とし
て、世界から叩かれる。これを我々がどう考
えて対処するかが、今後の日本の筋道を決定
すると思いますね。

金子 私は、今後の問題を考える時、日ソ
関係というのが極めて大きな課題になってく
ると思うんです。もし北方領土問題が円満に
片づいて、日ソ関係が改善したら、世界は大
きく変わる。中嶋さんが先ほどおっしゃった
国連の問題も、これまではソ連が拒否権を行
使して国連の軍事強制措置を認めなかったた
めにうまく機能してこなかったわけなんです。最
近の米ソ関係を見ると、これも様変わりして
いく可能性がある。

安全保障理事会が本来の安全保障理事会に
なり、国連の平和維持軍のようなものがアジ
ア・太平洋地域にも置かれるということにな
るかもしれない。さらにアメリカもソ連も、
中国も含めた、経済、安全保障機構といった
ものが成立する可能性もある。中嶋さんもお
っしゃったように、安保第十条は、そういう
状況になった時には、安保はなくなりまし
て、と言っているわけです。

ただ、それはいつになるのかわかりませ
ん。現実問題としては、五年か十年か、二十
年かわかりませんが、必要悪といつては悪い

ロツパでは、日本よりもっと深刻に、統一
ドイツの脅威をどう封じ込めるか、あるいは
統一ドイツをどう抱きすくめておくかという
問題が論じられているんです。

今日の議論では、日本はあれもしなければ
ならない、これもしなければならぬ、とい
う意見が多くてました。ただ、いささか自分
を苛めすぎている面があるのではないかと。自
分を反省することは大切ですが、これまでや
ってきたことに誇りと自信をもつことも必要
です。

私はこの春に、ソ連の連中と議論して強い
印象を受けたのですが、いまソ連ではNATO
加入までが検討されている。一部の専門
家は、若干の負の部分をもってはいいても、現在
の安保を続けていくべきだと思っただけです。
進藤 いずれにせよ、いまこそ日米安保条
約について徹底的な議論をつくす時だと思
います。

金子 それは同感です。三十年という節目
は、非常にいいきっかけですね。

中嶋 ところがいま、安保については何の
争点にもなっていない。ある意味では、ホッ
トイシューではなくなってしまう。野党も、
安保の存在を認めているという状態です。逆
に、そうであればこそ、いま安保について冷
静な再検討ができる時期ですし、それが是非
必要なのだと思います。

**睡眠は最大の
晩餐である**
あなたの大切な頭脳に潤いと充分な休養を！

自然の原理を
素朴に応用

ひんやりさわやか
鬼胡桃の枕
おにぎり
¥6600(税/送料サービス)
二試用のうえ返品可能(返送料当方負担)

お申込み
お問合せは **工房 藍 全**
〒384-13 長野県南佐久郡南牧村野辺山693-44
TEL 0267-98-3177 FAX 0267-98-3276

心をこめたおもてなし

GINZA

登録商号

本店・東京銀座6並木通り ☎ 571-1949
帝国ホテル店・新館B1 ☎ 503-1001
赤坂東急プラザ・天・茶葉 ☎ 504-2233

文藝春秋

大正十二年一月三十日第三種郵便物認可
平成二年七月一日発行 毎月一日発行
第六十八巻 第八号

特集 あの声
あの顔 昭和のヒーロー35

七月号

